

## 意見交換会開催内容（⑬岩間第二小学校）

**日時：**平成24年7月11日（水）午後7時～8時45分

**場所：**岩間第二小学校 体育館

**出席者：**37名

**意見：**大原小学校の未就学児数が20人を切っているが、今後20人を下回った場合に見直しを開始するという第2段階の条件に合っていないのではないか。

**回答：**調整区域から大原小学校へ入学する児童数が不明のため、その人数を加えない表示になっています。したがって入学時には20人を超えるものと考えられますので第2段階としています。

**意見：**中学校の適正規模は9学級以上となっているが、上限が設けられていない理由を伺いたい。

**回答：**検討委員会は、茨城県の指針や市民アンケートの調査結果、そして学習効果を考えて9学級以上が望ましいとしています。笠間地区の中学校4校を1校にしたとしても何十学級という規模は考えられませんので、9学級以上が適正であるとして特に上限は設けなかったということです。

**意見：**答申の付帯意見「児童生徒の不安の解消」のところに「統合前の子どもたち同士の交流」とあるが、実際にどういうことをするのか、また、何回程度実施するのか。

**回答：**事前に統合校同士の子どもたちが関わるができる行事や授業を行っていくことになりませんが、具体的な内容や回数については今後の学校統合準備会の中で検討していくことになります。

**意見：**第1段階の統合の時期はいつになるのか。

**回答：**統合の時期は平成26年4月を予定していますが、子どもたち同士の事前交流やスクールバスの運行などについて調整していくと平成27年度になることも考えられます。

**意見：**岩間第二小学校は第2段階になっているが、具体的な予定について説明してほしい。

**回答：**第1段階の次に第2段階に入ることではなく、あくまでも新入児童数が20人を切った状態が続く場合に改めて学区審議会を開いて話し合っていくということになります。

**意見：**岩間第二小学校の新入児童数が20人を切る時期は、近い将来なのか遠い将来なのか。

**回答：**岩間第二小学校区内の未就学児の数はどの年齢層も20人を上回っていますので、0歳児から5歳児に至る6年間は現状維持ということになります。また、20人を切る状態が続く期間を3年間とすると少なくとも9年間は見直しが始まらないということになります。ただし、その後の出生数は今の段階では見えてこないということになります。

**意見：**岩間第二小学校が近隣校に統合になる場合、全員が1つの学校に行くのであればいいが、岩間第三小学校や北川根小学校に分散されては困る。

**回答：**学区審議会でも同じことが話し合われましたが、議論の結果、学区を分けることは望ましくないという結論に達した経緯があります。

**意見：**地域に学校がなくなってしまうと、若い世代が将来地元に戻ってきてくれるのかという心配がある。行政として少子化対策に力を入れてほしい。

**回答：**笠間市では定住化対策と少子化支援策を同時に進めています。具体的には、笠間市の保育料は県内でも下のほうになっていますし、茨城県が小学3年生まで助成している医療費を笠間市ではさらに小学6年生まで拡大して助成しています。ほかにも様々な事業を展開していますが、できる限りの対策を講じていることをご理解いただきたいと思います。

**意見：**少人数校のデメリットと言うが、岩間第二小学校は先生の指導が行き届く1学級20人程度で学ぶことができる環境にあるし、地域に見守られながら育っていくというすばらしさがある。こうした環境を地域の誇りと思ってほしい。

**回答：**ご意見のように学習集団としては小さいほうが効果的でありますので、笠間市ではすべての学校で少人数指導やティームティーチングによる行き届いた指導を行っています。

**意見：**単学級だからといって人間関係の固定化やコミュニケーション能力面でのデメリットがあるとは思わない。

**回答：**先生方はデメリットをメリットに近づけていこうと努力しています。しかし、人数が少なくなってくると先生方の努力だけではどうしようもないことが出てきますので、適正な学校規模は必要ですし、お互いの競争や切磋琢磨の機会を充実させていくことが重要だと考えています。